

エリア・マネジメントによる放置駐輪対策のための心理的方略の社会的拡散

Social diffusion of psychological Strategy against illegal bicycle parking through area management *

三木谷智**・太田雅文***・前田正一****・伊藤典雄*****・藤井聡*****

By Satoshi MIKIYA**・Masafumi OTA***・Syoichi MAEDA****・Norio ITO*****・Satoshi FUJII*****

1. はじめに

東急電鉄東横線は2008年5月に現路線が開通してから80周年を迎える。これを契機として、東急電鉄東横線の各駅においては、駅を中心とする駅周辺エリアとそのエリア間を連続的に一体と見なした“エンドウ豆型エリア”を対象とし、東急電鉄と各駅の商店街組合を主体としたエリア・マネジメント（AM）が進められている。このAMは当該エリアの各種環境改善やイベントの助成を目指したもので、定期的な会合を開催しつつ多様な取り組みを継続的に進めるものである。

一方で、東京都が主体として目黒区・東京工業大学と共同しつつ、同エリア内の都立大学駅にて放置駐輪削減のための心理的方略による社会実験が行われた¹⁾。その結果、一定の成果が上げられたのだが、この様子をAMの会合で報告したところ、同様の問題を抱える他駅も同様の取り組みを実施する方向へと議論が進展することとなった。その結果、上記エリアに含まれる全5駅において、東急電鉄、目黒区および東急東横線の各駅の商店街が主体となってAMの一貫として、既存のモビリティ・マネジメント（MM）における知見を基にした「リーフレット」を作成、配布することとなった。本発表では、以上の経緯の詳細と、各駅において行われている取り組みを紹介することを通じて、エリア・マネジメントの可能性を描写することとしたい。

*キーワード：モビリティマネジメント、歩行者・自転車交通計画

**学生員、東京工業大学大学院理工学研究科

（東京都目黒区大岡山2-12-1 M1-20、
TEL03-5734-2590、E-mail:mikiya@plan.cv.titech.ac.jp）

***正員、PhD、東京急行電鉄株式会社

（東京都渋谷区神泉町8-16 渋谷ファーストプレイス5階
TEL03-3477-6218、E-mail:masafumi.ota@tkk.tokyo.co.jp）

****非会員、目黒区道路管理課自転車対策係

（東京都目黒区上目黒2-19-15、
TEL03-5722-9444、E-mail:doro03@city.meguro.tokyo.jp）

*****非会員、目黒区商店街連合会

（東京都目黒区目黒2-4-36、
TEL03-3710-9451、E-mail:kotobuki@dab.hi-ho.ne.jp）

*****正員、工博、東京工業大学大学院理工学研究科

（東京都目黒区大岡山2-12-1 M1-20、
TEL03-5734-2590、E-mail:fujii@plan.cv.titech.ac.jp）

2. エリアの概要

本節は開通80周年を迎える東急電鉄の沿線ごとの概況と、本取り組みの対象エリアである東横線沿線エリアについて紹介する。

（1）開通80周年の概要

東急電鉄では大井町線（大井町～大岡山間）が2007年7月、東横線（現区間／渋谷～横浜間）が2008年5月、池上線（五反田～蒲田間）が2008年6月にそれぞれ開通80周年を迎える。これを記念して、「つながっています 人、街、鉄道」をスローガンに、沿線の商店街や住民、NPOなどとともに、様々な「80周年記念イベント」を開催している。そして、上記の各路線において、駅を中心とする駅周辺エリアとそのエリア間を連続的に一体と見なした“エンドウ豆型エリア”（図-1）を対象としたAMが進められている。この背景の下、東急電鉄と目黒区内に所在する中目黒、祐天寺、学芸大学、都立大学、自由が丘の5駅周辺エリアの商店街の代表が1ヶ月に1回程度の頻度で会議を行っている。また、AMの観点から目黒区内の東急東横線の各駅にて各種の問題に取り組む集団として、本取り組みの主体となる東急電鉄、各駅周辺の商店街、目黒区および東京工業大学を総称して「東横めぐるエリア・マネジメントの会」と呼称している。

（2）AMの概要

次に目黒区内の東急東横線沿線にて行われているAMの概要を述べる。本AMは東急電鉄、目黒区商店街連合会と各駅の商店街代表、加えて目黒区から放置自転車等の問題を扱う自転車対策係の担

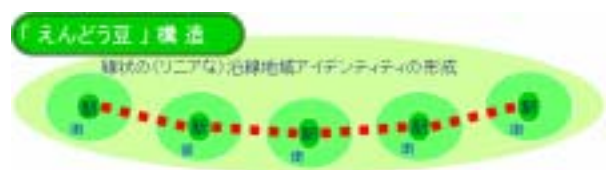


図-1 エンドウ豆型エリア

当者、そして東京工業大学によって、毎月1回の定例会議を行っている。会議は各駅の商店街代表が八百屋や精肉店の店主であることを加味し、買物客の比較的少ない午後2時から1時間程度としている。会議の中で取り扱われる内容は、主に東急東横線開通80周年に関連するイベントの告知や報告、放置自転車に代表される各駅の抱える問題に対する議論、80周年以後の東急電鉄と周辺地域との連携のあり方などについて議論が重ねられている。

(3) AMにおける心理的方略による放置駐輪対策の経緯

(1) にて述べたエリア内の都立大学駅周辺にて東京都が主体として目黒区・東京工業大学と共同しつつ、心理的方略による放置駐輪削減を目指した社会実験が行われた¹⁾。これは萩原ら³⁾の先行研究を発展的に実施したものであり、駐輪場の情報等を記載した「リーフレット」の配布等を実施することにより一定の成果が現れたものである。

上記の放置駐輪問題に対する取り組みについて、2007年9月のAM定例会議において取り組みの説明、10～12月に結果の報告を行ったところ、同様の問題を抱える他駅の周辺エリアにおいても同様の取り組みを実施する方向へと議論が進展することとなった。

(4) 対象エリアの概況

本節では対象となる5駅についての概況についてまとめる。対象地域は目黒区内を北東から南西に通る東急電鉄東横線の各駅である。東急東横線沿線は渋谷・横浜に直結していることから、幅広い年齢層からの居住ニーズが高く、人口の増減や流入の面からバランスの取れた地域であるといえる。

次に各駅の乗降客数と自転車の総乗り入れ台数、放置駐輪台数について表 - 1 に示す。表 - 1 より各駅の乗降客数は地下鉄日比谷線の乗り入れる中目黒駅が最も多く、次いで東急大井町線との結節駅である自由が丘駅である。乗り入れ台数につい

ては都立大学駅が最も多く、また、放置駐輪台数については、世田谷区管轄の範囲との合算ではあるが、自由が丘駅が最も多い。

対象の各駅においては区営および民間の駐輪施設が存在しており、それぞれ定期利用と一時利用が可能なのが存在している。各駅の駐輪施設の収容台数は自転車の総乗り入れ台数を完全に満たしているとは言えないものの、未だ登録可能な駐輪施設も存在しており、心理的方略による放置自転車の駐輪場への誘導が効果的であると考えられる。

(5) 対象エリアにおける放置駐輪対策の現況

対象エリアを管轄する目黒区では、条例として目黒区自転車等放置防止条例を定めている。この条例にて、自転車の大量な駐車需要を生じさせる鉄道駅等には駐輪場の設置に努めること、放置禁止区域の指定、放置禁止区域内の放置自転車は即時撤去を行えることを定めている。また、目黒区マスタープラン⁴⁾によれば、放置自転車、自動車の路上駐車への対応として、鉄道駅周辺において、歩行者の安全で円滑な通行を阻害する放置自転車への対応を図るため、自転車置場の確保、利用者の意識啓発、撤去などの取り組みを続けている。実際、対象エリアにおいても以上の条例の下、撤去活動が行われており、目黒区によれば、例えば平成17年度に関しては、対象エリア内の5駅では一年間で合計142回の撤去を行っており、総撤去台数は13,500台に上っている。また、平成18、19年度では概ね横ばいの状況となっている。これは、撤去した放置自転車の保管場所の容量が限界に達しており、保管している放置自転車を処分しない限り、新たに撤去が行えなくなっているからであると考えられる。

対象エリアにおいては、上述した駐輪場の新設や放置自転車の撤去というような、社会的ジレンマの考えの下で「構造的方略」に分類できる施策が主になされてきた。その一方で、一年に一度、東京都との連携の下、放置駐輪禁止の意識啓発メッセージを封入したポケットティッシュを配布する「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」や、看板等による自転車利用者の意識啓発を行っている。

3. AMにおける放置駐輪対策

本章では、「東横めぐろエリア・マネジメントの会」によって取り組まれた放置駐輪対策についてまとめる。

表 - 1 各駅の状況 (18年度調査)

駅名	乗降者数 (人)	自転車乗り入れ 台数(台)	放置駐輪 台数(台)
中目黒	172,644	923	534
祐天寺	29,510	867	332
学芸大学	67,853	1,524	405
都立大学	45,951	2,835	1,015
自由が丘	86,521	1,382	1,382

世田谷区の範囲と合算

（１）都立大学駅でのクリスマスコンサート

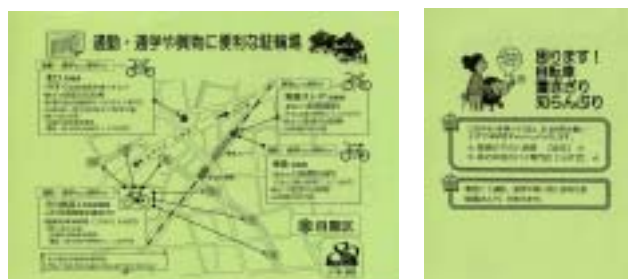
都立大学駅周辺では、駅近隣に所在する目黒区立第十中学校の吹奏楽部によるクリスマスコンサートが駅近傍の呑川緑道公園にて毎年12月に実施されている。この会場となっている公園周辺は都立大学駅周辺において特に放置自転車が多数散在しており、歩行者や自動車の通行妨害となっている。このような背景の下、クリスマスコンサートの際に上記吹奏楽部OGによって図 - 2 に示すチラシを封入したポケットティッシュを観客に200部配布し、また、ボーイスカウトによって図 - 3 に示す放置駐輪禁止を啓発するイエローカードを同じく200部、放置自転車に貼付した。なお、それぞれの配布物は三木谷ら¹⁾による取り組みの際に配布したリーフレットを参考に、目黒区が作成した。

都立大学駅周辺に所在する商店の協力の下、チラシの表面には1,000円の買物につき100円のキャッシュバックが可能であるとのメッセージを記載した。チラシの内側には放置駐輪を控えるような行動変容を促すことを意図して、都立大学駅周辺の駐輪施設についての利用方法等の情報を記載した。また、イエローカードにも同様の情報を記載した。

（２）クリーン大作戦

a) クリーン大作戦までの経緯

本項ではクリーン大作戦実施の経緯について述べる。まず、2007年10月からの一ヶ月間、対象エリア内である都立大学駅周辺において、東京都を主体とした心理的方略による放置駐輪削減を目的とした社会実験が行われた。この取り組みの結果、駐輪場の情報等を記載したリーフレットの配布によって一定の放置駐輪削減効果が確認された¹⁾。



（封入したとき内側となる面） （外側となる面）
図 - 2 区立中学校吹奏楽部OGの配布物



（表面） （裏面）
図 - 3 イエローカード



（二つ折り時に外側となる面） （二つ折り時に内側となる面）
図 - 4 配布したリーフレット

これを2007年10月に行われたAMの定例会議にて報告したところ、同様の問題を抱える他駅も同様の取り組みを実施する方向へと議論が進展することとなった。一方、目黒区以外の東急東横線各駅においても同様にAMが行われており、沿線をひとつのエリアと見なすエンドウ豆型AMの観点から、渋谷駅から横浜駅までの東急東横線の各駅が一体となって、全駅一斉の清掃活動として「クリーン大作戦」を2008年3月に計画していた。このクリーン大作戦に併せて、目黒区内の東急東横線の5駅にて、東急電鉄、目黒区および東急東横線の各駅の商店街が主体となってAMの一貫として、既存のMMにおける知見を基にした「リーフレット」を作成、配布した。

b) リーフレットの概要

放置自転車を削減するためのコミュニケーション・ツールとして図 - 4 に示すリーフレットを各駅について作成した。リーフレットは、A4 サイズの厚手の紙に両面カラー印刷を施し、二つに折りたたんで A5 サイズとしたものとした。リーフレットには、「放置駐輪は迷惑な行為である」「放置駐輪をやめよう」という一面的なメッセージによる放置駐輪者からの心理的リアクタンス⁵⁾を招かないよう配慮しつつ、出来るだけ最小限の情報量のもと、放置駐輪を控えるような行動変容を促すことを意図して、以下の情報を記載した。

- ・駅周辺に駐輪施設が合わせて何ヶ所存在するか。
- ・駐輪施設から各駅までのアクセス方法・利用方法と利用料金について。
- ・各駐輪施設についての問い合わせ先。
- ・それぞれの駐輪施設が通勤・通学、買物に便利であること。
- ・「少し」だけ歩けば駅周辺には駐輪場があるかもしれないこと。
- ・駐輪場がないならば、自転車利用を控えるよう「少し」だけでも考えてみることを。
- ・一人一人が「少し」ずつ行動変容すれば駅周辺の環境は改善される可能性があること。

本取り組みでは上記のリーフレットを1駅につき5,000部、計2,5000部印刷し、クリーン大作戦にて1駅につき200部を配布した。なお、このリーフレットの作成・印刷・配布にあたる経費・労力については、AMの各参加者のそれぞれにおいて何が担当可能であるかを議論し、それぞれが可能な範囲でこの取り組みの作業を分担する形とした。そして、実施主体を東横線80周年記念イベント実行委員会として、これをリーフレットに明記すると共に、その下に、特にこのリーフレット作成に関わった諸団体（目黒区、東京急行電鉄㈱、目黒区商店街連 合 会、東京工業大学）を記載した。

また今後、各駅にて行われるイベント時に手渡しで配布、東急電鉄や近隣商店等の協力の下、備え置きにて配布する予定である。なお、リーフレット配布による放置駐輪削減の効果計測については、リーフレットの配布途中であるため、今後、結果を収集し、分析を行う予定である。

3. おわりに

本取り組みは、東急東横線各駅の周辺エリアとそのエリア間を連続的に一体と見なした“エンドウ豆型エリア”において、東急電鉄と各駅の商店街組合を主体としたAMが進められている背景の下、同エリア内の都立大学駅にて放置駐輪削減のための心理的方略による社会実験を、対象エリア内にて同様の問題を抱える目黒区内の5駅において、東急電鉄、目黒区および東急東横線の各駅の商店街が主体となってAMの一貫として同様の取り組みを実施した。

これは都立大学駅での取り組みが契機となり、放置駐輪対策のための心理的方略が拡散したものである。現段階ではAMによる心理的方略を用いた放置駐輪対策の効果については検証できないものの、その社会的拡散については一定の効果が現れていると考えられるであろう。

すなわち、ルーチン・ワークが明確化された既往組織の中で、ここで紹介した放置駐輪の心理的方略施策の様な「一定の効果が予期される、新規の取り組み」を展開していくことは必ずしも容易ではないのが実情であると考えられる。しかし、多様な組織体から、実施現場の企画決定がより可能な参加者が参画しているAMの場が存在していれば、その様な新規の取り組みを推進、拡大していくことができる可能性が大いに増進するものと考えられる。無論、そうしたAMの可能性を厳密な数値データで確認するようなことは必ずしも容

易ではないが、今回紹介した事例は、そうした可能性をAMが持っているという明らかな事例である。

参考文献

- 1) 三木谷智・羽鳥剛史・藤井聡：心理的方略による放置駐輪削減施策に関する実証的研究：東急電鉄東横線都立大学駅における取り組み，土木計画学発表・講演集，vol.37，2008．
- 2) 東急電鉄株式会社：東横線・池上線・大井町線80周年HP，<http://www.tokyuensen.com/80/index.html>
- 3) 萩原 剛・藤井 聡・池田 匡隆：心理的方略による放置駐輪削減施策の実証的研究：東京メトロ千川駅周辺における実務事例，交通工学，42（4），pp.89-98，2007．
- 4) 目黒区：目黒区マスタープラン，pp.47，2004.
- 5) 土木学会：モビリティ・マネジメント（MM）の手引き：自動車と公共交通の「かしこい」使い方を考えるための交通施策，2005